

原著論文 (Article)

幼児期の音楽表現カリキュラムの研究 その3

— 年間指導計画の運用にむけて —

Study of curriculum development of music expression in early childhood (3): Practical use of annual guidance plan for “Expression” in kindergarten

山中 文^{1,2}・小林奈美²・飯田 恵²・伊藤准子²・三田郁穂²・太田央子³

YAMANAKA Aya^{1,2}, KOBAYASHI Nami², IIDA Megumi², ITO Junko², MITA Ikuho², OTA Hisako³

摘 要

開発した音楽表現カリキュラムに基づく年間指導計画を提案し、運用の実際について考察した。音楽表現カリキュラムは、平成29年改訂『幼稚園教育要領』等の趣旨および資質・能力面の円滑な接続の観点から、幼児期の音楽表現と就学後の〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」を関連させて開発した(山中他: 2019, 2021)。本研究では、それに基づいて作成した年間指導計画を提案し、その運用について考察した。

キーワード: 幼児期の音楽表現, カリキュラム, [共通事項], 幼稚園, 年間指導計画

Key words: music expression in early childhood, curriculum, “Common Items”, kindergarten, annual guidance plan

はじめに

本研究では、これまでにまとめた「幼児期の音楽表現カリキュラムの研究—椋山女学園大学附属幼稚園の『表現』の年間指導計画の検討にあたって—」(山中他: 2019)「幼児期の音楽表現カリキュラムの研究 その2—園内研修による事例検討とカリキュラム改訂—」(山中他: 2021)を踏まえ、その中で開発した音楽表現カリキュラムを元にした年間指導計画を提案する。また、その年間指導計画は、椋山女学園大学附属幼稚園(以下、椋山幼稚園と略記)で運用した。そのことから、カリキュラム改訂後の年間指導計画の運用の実際について考察する。

1 2018年までの椋山幼稚園の年間指導計画

椋山幼稚園は、1942(昭和17)年に椋山女子専門学校附属幼稚園として開設され、1950(昭和25)年に椋山女学園大学附属幼稚園に名称を変更して現在に至っている。2022年には創立80周年を迎える幼稚園であるため、その年間指導計画は長年の実践経験から積み上げられており、音楽表現教材においても取り上げられる教材は実践上得られた子どもの意欲や関心、活動状況から吟味され、活動が展開されている。

しかし、実際の年間指導計画からはなかなかその活動の様子が読み取れない。平成30年度の年間指導計画は、たとえば次頁の表1のように立てられていた¹⁾。

表1からわかるように、「楽器」の項目以外は取り扱う教材を並べた形になっているため、その活動内容は、推察できなくはないが、明確ではない。「歌」は、季節や行事にかかわったものが楽曲教材として取り上げられている。「歌」「手遊び」「遊戯」で取り上げられている教材は、どういうねらいで選ばれたのか意図がわからないため、意図の共有や確認、教材の代替がむずかしいものとなっている。「ごっこ遊び」は「まねっこあそび」と「お話ごっこ」と大きく2つしか示されておらず、「鑑賞」は年間通じて行う催し物の注記のような記載になっている。「楽器」は項目の中で唯一、活動内容がわかるものになっているが、たとえば、2,3月は突然楽曲名になっていたりするのはなぜか不明である。留意点はカスタネットの正しい持ち方についてのみであり、活動で用いる楽器はほぼカスタネットに限定しているようにも見受けられる。その他の留意点も、たとえば、「歌」であげられている「季節にあった曲を取り入れる」「歌詞をわかりやすく知らせる」「子どもが歌を覚えているかチェックする」といった留意点のように、子どもの音楽表現に対する留意点ではなく、教師の指導上の留意点となっている。

文部科学省は、『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』(文部科学省: 2021)の中で、「指導計画作成の手順や形式などに一定のものはありません」(文部科学省: 2021, 60)としながら、踏まえる必要があるものとして、長期の指導計画の流れを以下のように示している(文部科学省: 2021, 63)。

・その時期の発達や幼稚園生活の流れなどを見通す教師の思

¹ 椋山女学園大学教育学部, ² 椋山女学園大学附属幼稚園, ³ 名古屋医療秘書福祉専門学校
2021年11月9日受付

表1. 平成30年度指導計画～表現活動（音楽・リズム）～年少

	楽器	歌	手遊び	遊戯	ごっこ遊び	鑑賞・その他
4	身のまわりにある色々な音に興味を持つ。	チューリップ	くりのきやまのきつね	みんなであそぼ		・教師によるお楽しみ
		おかえりのうた	ひげじいさん	アンパンマン体操		
		◎こいのぼり	1本と1本	親子でメリーゴーランド		
5		おべんとうのうた	あおむしてたよ	ディズニー体操		
		ことりのうた	だしてひっこめて はじまるよ	たけのこ体操 バスに乗って		
6		かえるのうた	むすんでひらいて	かえるのみどりちゃん		
		◎たなばた みずあそび ◎しゃぼんだま	1匹のかえる - 傘 グーチョキパーで	ぞうさんとくものす		
7		金剛鐘が鳴っている(1番)	あたま・かた・ひざボン	ひよっこりひょうたん島		
		◎とんぼのめがね	わにのおやこ 三ツ矢サイダー			
9	・カスタネットの持ち方、使い方を 知る。	アイアイ	キャベツはキャ	しゅりけんになんじゃ		・劇団鑑賞
		金剛鐘がなっている(2番)	大きな栗の木の下で	運動会リズム		
10	・音が出るものを作 って楽しむ。	◎バスごっこ	いわしのひらき	運動会リズム	・まねっこ あそび	・教師による お楽しみ
		どんぐりころころ	げんこつやまのたぬきさん	エビカニクス		
11	・音に合わせてカス タネット遊ぶ	◎まつぼっくり	やきいもグーチャーパー	になんじゃのおにぎり		・大型絵本
		不思議なポケット		ポテトチップス体操		
12		◎お正月	やまごやいっけん	白いひげのサンタ		
		◎ゆき クリスマスソング	くいしんぼのゴリラ			
1	・音楽に合わせてカ スタネットをたたいて 楽しむ。	◎豆まき	大きくなったら何になる？	いきいきDAYのリズム		
		いきいきDAYの歌	鬼のパンツ			
2	「おもちゃの チャチャチャ」	◎ひなまつり	ハベえさんと十べえさん	いきいきDAYのリズム	・お話ごっこ	・縦割り 鑑賞会
		いきいきDAYの歌				
3	「カスタネットでチャ チャチャ」	さんぽ	チョキチョキダンス	アブラハムの子		・大型絵本
		金剛鐘がなっている	小さな庭	だいすきだい！(年長お別れ)		
留意点	・正しくカスタネットの 持ち方、使い方を 知らせる。	・親しみやすい季節に あった曲を取り入れ る。 ・歌詞をわかりやすく 知らせる。 ・教師の方を向いて歌 い、子どもが歌を覚え ているかチェックす る。	・生活の中のいろいろな場 面で楽しめるようにす る。 ・好きなものは繰り返し 楽しめるようにする。	・環境を整えて広い場所 を作ったのびのびと楽し める ・カセットテープを利用し て、子ども達が自由に流 せるようにしておく。 ・輪になって踊ることも取 り入れていく。 ・兼用園庭や、共有廊下 でも行う。	・遊びのきつ かけとなるもの の種類や 量を豊富に 準備しておく。	

いや願いを含ませる。

- ・具体的なねらいや内容を設定する。
- ・具体的なねらいや内容、季節や行事などを踏まえた環境の構成を想定する。
- ・その時期の環境に係って活動する幼児の姿の予想に基づき、教師の援助を想定する。

これらから本園の指導計画を見ると、具体的なねらいや内容の記載が乏しく、その時期の環境に係って活動する幼児の姿の予想がわかりにくいものになっていることがわかる。

2 2019年度、2020年度の音楽表現カリキュラムの改訂を通じた年間指導計画修正への方向

2.1 事例研究から

1で述べたような年間指導計画を見直すため、椋山幼稚園では、2019年度、2020年度と2年続けて、園内研修として音楽表現カリキュラムと年間指導計画の見直しを行った。2019年度は、平成29年改訂「幼稚園教育要領」等の趣旨を確認し、資質・能力面の円滑な接続からみた音楽表現カリ

表2. 2020（令和2）年改訂音楽表現カリキュラム

		年少	年中	年長
素材や表現の仕方	音	1 身のまわりの音に気づく。 2 音色、声色の違いに気づく。 3 音の強弱を身体運動でとらえる。 4 音を色や形でとらえる（＝リズム、メロディー）。	5 身のまわりの音を聴きわける。 6 長い音、短い音に気づく。 7 音色を聴きわける。 8 楽器の鳴らし方を工夫する。 9 音の強弱をつくる。 10 音を色や形で表す（＝リズム、メロディー）。	11 音の立ち上がり、減衰に気づく。 12 イメージにあった音色、声色、強弱を選ぶ。 13 音の強弱の効果を知る。 14 複数の音をグループで色や形に表し、再現する（＝リズム、メロディー）。
	リズム	15 拍に合わせて歩く、手をたたき、動く。 16 拍に合わせて、簡単なリズムを打つ。 17 拍の長さや拍数の変化を体感し、身体運動を通して速度やイメージの違いに気づく。 18 サイレントシンギングをする（＝音、メロディー）。	19 拍に合わせて簡単なリズムを表す。 20 簡単なリズムの応答をする。 21 イメージと速度について気づく。 22 サイレントシンギングをする（＝音、メロディー）。 23 楽曲に合わせて、ふさわしい動き、楽器の選択、楽器の組み合わせを試して遊ぶ	24 拍に合わせて簡単なリズムを作って表す。 25 簡単なリズムの応答をする。 26 楽曲に合わせて、ふさわしい動き、楽器の選択、楽器の組み合わせを考える。
	メロディー	27 身体運動や声を通して音の高低に気づく。 28 音の上行、下行、跳躍等に気づく。 29 言葉に抑揚をつけて遊ぶ。 30 応答的なことばのやり取りを楽しむ。	31 身体運動や声を通して音の高低に気づく。 32 音の上行、下行、跳躍等を進退運動や声で表す。 33 同じメロディー、違うメロディーに気づく 34 旋律的な言葉の応答をする。 35 応答的な旋律を歌う。	36 身体運動や声を通して音の高低を表す。 37 楽曲のフレーズと息継ぎに気づく。 38 応答的な旋律を歌う。 39 三部形式を身体運動で表す。 40 合いの手のような旋律に気づく。 41 階名模唱で音高をとらえる。
	ハーモニー	—	—	42 和音の響きを感じる。
	テクスチャー	—	43 オスティナート系の手遊びをする。 44 ずれを楽しむ	45 簡単な直行カノンの歌を歌う。 46 伴奏の効果に気づく。
	調性	—	47 長調から短調へのアレンジなどを感じて遊ぶ。	→
音楽の機能	48 音楽やリズムによって、身体の運動が誘発されたり、感覚が刺激されたりする。 49 音楽やリズムに共鳴し、情動が誘発される。 50 音楽やリズムにより音楽的時間を共有する一体感を持つ。 51 手遊び等により、数概念の形成、言葉の認識の深化、季節や行事の訪れの理解等が促進される。 52 音楽やリズムがこどもたちの遊びとして存在する。 53 音楽活動や遊びを通して、集団の中で気持ちや活動を共有し、認め合う。			
音楽の表現対象	54 自然や動物などを表した楽曲のイメージをその音楽的特徴からとらえて楽しむ。 55 ストーリー性のある歌詞を、その音楽的特徴とともに楽しむ。 56 自然や動物などを表した楽曲のイメージをとらえ、をその音楽的特徴を生かして歌う。 57 ストーリー性のある歌詞を、その音楽的特徴を生かして歌う。 58 自然や動物などを表した楽曲のイメージをとらえ、その音楽的特徴を生かして歌う。 59 ストーリー性のある歌詞を、その音楽的特徴を生かして歌う。 60 登場人物の感情に合わせて、表現する。			

キュラムの要として、幼児期の音楽表現と就学後の〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」を関連させた音楽表現カリキュラム案(山中他：2019)から事例研究を行った。2020年度は、そのカリキュラムを相山幼稚園の実践全体に運用し、カリキュラムの「事例研究からカリキュラムを表2のように再構築した。

2019年作成のカリキュラムに基づいて2020年度に行った

園内の事例研究では、年間指導計画に生かせる意見として、以下が出ている。

「今回のカリキュラムの項目に合わせ、現行の年間指導計画の分類を紐付けすると、実践で活用できるカリキュラムの再構築を図ることができるのではないかと、さらにあまり取り組んでこなかった項目について具体的な遊びや曲を組み込むと経験に偏りがなくなると思われる」(山中

他：2021, 93)

「音楽と子どもの遊びは密接につながっており、音楽表現だけで完結するのではなく、全ての分野と相互に関係していくと感じた」(山中他：2021, 101)

「大分類『素材や表現の仕方』の項目内容はあまり意識していなかった。今回、『素材や表現の仕方』の各項目に該当する遊びや活動が楽しめるような環境を整えたりしたことがきっかけで、子どもたちの音楽活動の幅が広がり、新たな音楽遊びに繋がり、教材研究や楽器の素材研究を行なっていく大切さを感じた」(山中他：2021, 101)

これらの気づきから、園内では、年間指導計画作成にあたり、以下を視点とした。

- ・「素材や表現の仕方」の項目内容からの教材研究の視点を持つこと
- ・「音楽の機能」や「音楽の表現対象」において、音楽を子どもの遊び、他分野とのかかわりからとらえること
- ・カリキュラムの項目と年間指導計画の分類を紐付けするとともに具体的な遊びや楽曲を示していくこと

2.1 園内音楽会の見直し

2020年度には、先に述べた事例研究に合わせて、子どもたちに毎年提供している音楽会の見直しも行った。いわゆる親しみやすい名曲を鑑賞させるといった音楽会のスタイルから、カリキュラムの「素材や表現の仕方」に示した音楽の要素に子どもたちが気付き、日常で遊びとして取り入れていけるようなプログラムへの転換である²⁾。特に、表3の音楽カリキュラムの中で、「音」の「2音色、声色の違いに気づく」「7音色を聴き分ける」の部分に着目し、声色の変化に着目させることをねらい、4声部の声が明確に確認できるものとした。その他、表中の16, 20, 25, 27, 30, 31, 35, 45などの定着に着目している。

音楽会³⁾は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策として、全学年一斉ではなく、学年別に行ったため、年齢に応じて、プログラムを少し変えている。

年少・年中用プログラム

- ① 「となりのトトロ」⁴⁾
- ② 「山の音楽家」⁵⁾
- ③ 「パパパの二重唱」⁶⁾(『魔笛』より)
- ④ 「大きな歌」⁷⁾
- ⑤ 「幸せなら手をたたこう」⁸⁾
- ⑥ トランペットの休日⁹⁾

年長用プログラム

- ① 「となりのトトロ」⁴⁾
- ② 「山の音楽家」⁵⁾
- ③ 「蛙の合唱」¹⁰⁾
- ④ 「パパパの二重唱」⁶⁾(『魔笛』より)
- ⑤ 「遠い日の歌」¹¹⁾
- ⑥ 「風になりたい」¹²⁾

以下にそれぞれの構成の意図と園児の反応を楽曲別に述べる。

「となりのトトロ」⁴⁾はオープニングとして、親しみやすい曲で4声部の声を聴くこと、ピアノの華やかなアレンジ伴奏にも着目することことをねらった。途中の「トットロトットロ」の歌詞の部分から、年少児は手拍子を打ち始め、年長児は「合いの手」を入れた。これから、年少児はカリキュラムの16, 年長児は、カリキュラムの25の定着が窺えた。

「山の音楽家」⁵⁾では、歌詞を変え、それぞれの声部の紹介を行った。「わたしゃオペラ歌手のソプラノです 上手に高い音歌います いかがです」というように歌詞を変え、ソプラノやテノールは途中から旋律を高く、アルトやバスは旋律を低くアレンジした。子どもたちは、それぞれ高くなった部分、低くなった部分で声をあげて反応した。カリキュラムの27, 31の定着が窺えた。

「パパパの二重唱」⁶⁾は、少し楽曲紹介をした後、登場人物の「パパゲーノ」と「パパゲーナ」の様子を、声色、強弱、身振りから園児たちが想像することをねらい、原語のドイツ語で演奏した。途中あちこちから「ひよこ」に扮した幼稚園の教師が参加し、園児たちは、その姿を追ったり、パパゲーノたちの出現に応じて声に着目したりすることができた。

「大きな歌」⁷⁾は、1番を歌った後、椋山幼稚園の生活の様子を替え歌にして園児たちと応答するようにした。年少では、「すみれ組、ばら組、きく組、れんげ組、みんなでなかよし、椋山幼稚園」というわかりやすい歌詞にしたこともあって、園児たちは応答が容易にできた。年中には「ダンゴムシ見つけたよ、オスかなメスかな、突っついてみたけど丸まらない、わらじ虫」という、実際に年中児が園の中で体験したことを元にしたので、歌詞に注目して応答を楽しむことができた。31, 35の定着が窺えた。

「幸せなら手をたたこう」⁸⁾は園児も一緒に動作を行った。「不幸せなら泣きましょう」の歌詞の部分では速度を落として、泣く動作をゆっくり行い、その後は、動作を頭・肩・腹・足の動作を全て取り入れる動作とした。年少児は、泣く動作のところで「泣きたくなった」と声を出したり、足の動作のところでは思わず何人も立って足踏みしたりするなど、カリキュラムの17に関して曲の反応している様子を見ることができた。

「トランペットの休日」⁹⁾は、元は管弦楽作品であるが、今回は、その声楽アンサンブル用の編曲を用いた。音楽会最後にトランペットの擬音が各声部から示される面白さを感じてほしいということで取り入れた。

年長プログラムで、「大きな歌」に変わって「蛙の合唱」¹⁰⁾を取り入れているのは、年長は音楽会当時、応答的な旋律は自分たちでも行えるほどになっており、加えてクラスによっては、「蛙の合唱」を輪奏したり輪唱したりする遊びや活動を行うようになっていたためである。今回、音楽会で、年長

全クラスで演奏家たちと輪唱する機会とし、カリキュラムの45にかかわる姿を見ることができた。

また、ここでの輪唱体験は、その後の「遠い日の歌」¹¹⁾につながっている。「遠い日の歌」はパッヘルベル作曲の「カノン」をモチーフにしている。旋律がいくつかの声部が重なっていく様子を聴いてほしいという観点から取り入れた。

年長プログラム最後の「風になりたい」¹²⁾は、幼稚園教師の連弾に合わせて、歌やジャンベ、マラカス等などを取り入れ、サンバのリズムにのって4声部の声質を華やかに感じることができるよう構成した。

3 年間指導計画の運用

3.1 年間指導計画の作成

2を踏まえて以下の表3～5による2021年度は、年間指導計画を作成し、実施している。

3.2 年間指導計画の運用とその考察

年間指導計画は、表3～5のように各学年で必ずしも書き方は一致していないが、概ね、楽曲や活動をカリキュラムの項目に合わせて取り入れていこうとしたものになっている。園内で共有している音楽表現の記録では、この年間指導計画の運用による気づきが次のように記載されている。年少担任の記録では、以下のように見られる。

- ・教材の発掘や子どもたちの探究心のきっかけづくりができるようになった。
例：楽器を机に幾つか並べて順番に鳴らしていき、音色の違いを聴き分ける「音の小径」を作ったところ、鳴らしていくうちに、自分の好きな音を見つけて鳴らすようになった。
- ・日常的なやりとりの中で子どもたちが気づいたり遊んだりしていることに気づいた。
例：様々な場面での「もういいかい」「もういいよ」の速度や表情を変えたやりとりなど。
- ・子どもたちの様子から高学年の項目に該当する内容への芽生えを見ることができた。
例：年少で歌っている「宇宙船のうた」「おへそ」「こすれこすれ」など、年少でも「合いの手」を感じていれている様子があった。
- ・歌を、全員で歌う場面だけでなく、遊びの中で取り入れるようになった。
例：「どんぐりころころ」を歌っていた時に、「どんぐりみたいにコロコロしてみたい」という子どもの発言から、全員でどんぐりになりきって遊ぶ活動に発展した。その後、自然に歌いながらコロコロしているうちに、歌詞に合わせて「こんにちは」とお辞儀をしたり、泣いたりしてどんぐりになりきって楽しむようになった。

・ほかの領域の活動と結びつけて音楽の活動を見ることができるようになった。

例：廃材を使った制作で色々な楽器を作る子どもたちが出てきた。「大きなたいこ」を歌っていた時に、「大きなバイオリン」で歌いたいという子どもが出てきて、振り付けや歌詞（擬音語）を子どもたちが考えていった。

このような様子から、年少では、「各クラスの子どもの様子や楽しんでる姿は異なるので、それに合わせて教師が教材研究して取り入れたことによって、より歌を身近に感じて楽しむことができた」「教師自身も教材研究することで、新たな発見ができた」と締め括っている。

年中担任の記録は、3学年の中ではやや薄く、また楽曲中心のものになっている。この様子は、年間指導計画でもわかる。コロナ感染症対策のため、大声を出さない配慮もある中で、「ながぐつマーチ」などの足踏みで強弱を楽しむ姿があったり、「ドロップスのうた」などで、高い音に跳躍する時に背伸びをしたりしたなど、楽曲に応じた子どもたちの様子の記載になっている。

年長担任の記録では、以下のような気づきが見られる。

- ・ゲームとして長い期間楽しめ、その中で気づいていけるものがあった。
例：「拍手で宝探しゲーム」を1学期からこれまで長い間楽しんだ。経緯を重ねる中で、拍手の音の強弱だけでなく、楽器を用いて音の立ち上がりや減衰にも気づいていった。
 - ・子どもたちが活動の中で音について気づいたり感じられたりするようになっていった。
例：自然についての絵本の中に「おと」が入っていて、その絵本から、太鼓の上にビーズを乗せて叩き、叩く強さによってビーズがはねる高さが違うことを色々試す姿があった。
 - ・日常的に繰り返すことで身につくことがある。
例：教師がリズムに乗せて呼びかけると、リズムに乗せて返事をするなど、心地よい応答の仕方が身につけてきている。
 - ・子どもたちが表現の仕方に気づいていることに目が向いた。
例：三部形式の歌で動作をつけていたら、二部形式の「どうぶつえんへいこう」で、子供たちからA Bの旋律で動作を変えるように考えた。
 - ・表現の仕方が身近なものに定着した。
例：「ドレミの歌」の活動が遊びの中でも展開され、身近なものとして定着した。
 - ・表現の変化に気づくようになった。
例：伴奏の変化に気づき、歌い方を変えたり、心地よさや楽しさを感じたりするようになった。
- このような気づきから年間指導計画を改めて見てみたい。年少の年間指導計画は、「素材や表現の仕方」では、項目

表3. 年少年度計画

	年少	1 学期	2 学期	3 学期
音	1 身のまわりの音に気づく。 2 音色、声色の違いに気づく。 3 音の強弱を身体運動でとらえる。(=リズムム、メロディー)。 4 音を色や形でとらえる。(=リズムム、メロディー)。	2 絵本の読み聞かせ (声色) 3 大きくトーン小さくトーン (音の強弱)	1 おとさがし (身の回りの音に気づく) 手作り楽器 1.2 音の小道 (音や音色の違いに気づく遊び) 2 音のあてっこ (音色) 様々な曲やフレーズを高音や低音などで弾く (音色) 3 「おおきなたいこ」 (音の強弱)	1 音付き大型絵本『たまごにいちやん』(身の回りの音に気づく) 3 「小さな庭」(手遊び) (音の強弱)
素材	15 拍に合わせて歩く、手をたたき、動く。 16 拍に合わせて、簡単なリズムを打つ。 17 拍の長さや拍数の変化を体感し、身体運動を通して速度やイメージの違いに気づく。 18 サイレントシンキングをする(=音、メロディー)。	15, 16, 17 「だしてひっこめて」(拍や簡単なリズムや長さ) 15, 16 「キャベツはきやつきやつきや」(拍に合わせて) 17 「親子でメリーゴーラウンド」 「もーいいかい」の言葉遊び (速度の違いを身体表現で表す)	15 言葉で拍手 物や人の名前 (キャベツ、ピーマン、はなこ…)(拍に合わせて手をたたき) 16 「パスごっこ」「あわてんぼうのサンタクロース」(拍に合わせて簡単なリズムを打つ) 16, 17 「せんろはつづくよどこまでも」 (拍に合わせて手や楽器を鳴らす) 18 「ひげじいさん」 (同じ言葉の所でサイレントシンキング)	15 「ハンやさんにおかいもの」(拍に合わせて手をたたき) 15, 16 「たのしいね」「おもちゃのチャチャチャ」(リズム打ち) 17 「ドライブ ゴーゴー」の遊び (速度やイメージの違いを身体で表現する)(※四拍子の曲ならやりやすい) 「ドコノココノコ」
表現の仕方	27 身体運動や声を通して音の高低に気づく。 28 音の上行, 下行, 跳躍等に気づく。 29 言葉に抑揚をつけて遊ぶ。 30 応答的な言葉のやりとりをつけて楽しむ。	27 音を使った動物まねっこ遊び (音の高低を身体表現で表す) 29, 30 「もーいいかい」で言葉遊び (拍の長さや旋律を言葉で表す)	27 「たちましよう, すわりましよう」の言葉だけで音の上下行を身体表現する 「ドレミのうた」 (音の高低, 上下行, 跳躍に気づく) 30 「アイアイ」「森のくまさん」(応答的な旋律) 「どんな色がすき」「パスにのって」「うちゅうせんにのって」(あいの手)	30 「おへそ」「やまごっこ」 (応答的表現) 「こすれこすれ」(あいの手) 「ひなまつり」「かまきりじいさん」「こすれこすれ」 「かごめかごめ」(短調の曲に触れる。) 48 「アブラハムの子」「リズムジャンプ」の運動 29 「だいきだい」「こすれこすれ」(一体感) 50 「かごめかごめ」(伝承遊び) 51 「ゆき」「豆まき」「ひなまつり」(季節, 行事) 「大きくなったら何になる?」(教概念) 「ちよきよきダンス」「アブラハムの子」(言葉の認識) 52, 53 「ロンドン橋」(一体感, 音楽遊び)
調性	—	—	—	—
音楽の機能	48 音楽やリズムによって、身体が運動が誘発されたり、感覚が刺激されたりする。 49 音楽やリズムに共鳴し、情動が誘発される。 50 音楽やリズムにより音楽的時間を共有する一体感を持つ。 51 手遊び等により、教概念の形成、言葉の認識の深化、季節や行事の訪れの理解等が促進される。 52 音楽やリズムが子どもたちの遊びとして存在する。 53 音楽活動や遊びを通して集団の中で気持ちや活動を共有し、認め合う。	48 「くりのきやまのきつね」「ひげじいさん」「おおむしでたよ」「むすんでひらいて」「グーチョキパー」「あたま・かた・ひざポン」「アンパンマン体操」「ミツキーマウス・クラボン・マーチ」「たけのこ体操」「かえるのみどりちゃん」「ひよこどりひよこちゃん鳥」 49 「親子でメリーゴーラウンド」 50, 51 「1本と1本」「はじまるよはじまるよ」「1匹のかえる」「三ツ矢サイダー」「ぞうさんとくものす」(教概念) 「誕生日の歌」「チューリップ」「こいのぼり」「ことりのうた」「たなはた」「水あそび」(季節, 行事) 52, 53 「ぞうさんとくものす」ことりのうた」(音楽遊び)	48 「大きな栗の木の下で」「しゅりけんになんじや」「エビカニクス」「にんじやのおにぎり」「ボテトチツプスのうた」「白いひげのサタさん」「宇宙船のうた」「おなかのへるうた」 49, 50 「くいしんぼゴリラのうた」 51 「パスにのって」「どんぐりころころ」「とんぼのめがね」「まつぼっくり」「お正月, クリスマスソング, はなをみがきましよう」(季節, 行事) 「いわしのひらきがが」(教概念)「山のワルツ」(教, 時間) 52, 53 「むっくりにまきまき」「あぶくたつた」(音楽あそび)	48 「アブラハムの子」「リズムジャンプ」の運動 29 「だいきだい」「こすれこすれ」(一体感) 50 「かごめかごめ」(伝承遊び) 51 「ゆき」「豆まき」「ひなまつり」(季節, 行事) 「大きくなったら何になる?」(教概念) 「ちよきよきダンス」「アブラハムの子」(言葉の認識) 52, 53 「ロンドン橋」(一体感, 音楽遊び)
音楽の表現対象	54 「わにのおやこ」 (動物の特徴をとらえた歌) 55 自然や動物など表した楽曲のイメージをその音楽の特徴からとらえて楽しむ。 ストリー性のある歌詞を、その音楽の特徴とともに楽しむ。	54 「わにのおやこ」 (動物の特徴をとらえた歌)	54 「やまごやいっけん」「どんぐりころころ」「はらぺこあおむし」「犬のおまわりさん」 (歌のストリー性を知り、身体表現を取り入れる。) 55 「森のくまさん」「とんぼのめがね」 お話ごっこ (オペレッタ) (音楽表現)	54 「さんぽ」「おへそ」(歌のストリー性を知る) 「八べえさんと十べえさん」(歌のストリー性を知り、音楽的特徴を楽しむ) 55 「森のくまさん」「とんぼのめがね」 お話ごっこ (オペレッタ) (音楽表現)

表4. 年中年度計画

	年中	1学期	2学期	3学期
音	5 身のまわりの音を聴きわける。 6 長い音、短い音に気づく。 7 音色を聴きわける。 8 楽器の鳴らし方を工夫する。 9 音の強弱をつくる。 10 音を色や形で表す(=リズム、メロディー)。 教師が意識的に活動に取り入れていく	5, 6, 7, 8, 9 楽器(カスタネット, タンブリン) 9 手遊び「たまたまご」	5, 6, 7, 8, 9 楽器(カスタネット, タンブリン) 7 「むしのこえ」 9 手遊び「こぶたさんのおうち」	5, 6, 7, 8, 9 楽器(カスタネット, タンブリン) 7 マラカスの音あて 9 手遊び「おにのパンツ」
素材や表現の仕方	19 拍に合わせて簡単なリズムを表す。 20 簡単なリズムの応答をする。 21 イメージと速度について気づく。 22 サイレントシンキングをする(=音、メロディー)。 23 楽曲に合わせて、ふさわしい動き、楽器の選択、楽器の組み合わせを試して遊ぶ。 31 身体運動や声を通して音の高低に気づく。 32 音の上行、下行、跳躍等を速運動や声で表す。 33 同じメロディー、違うメロディーに気づく。 34 旋律的な言葉の応答をする。 35 応答的な旋律を歌う。 43 オステイナート系の手遊びをする。 44 ずれを楽しむ。 47 長調から短調へのアレランジなどを感じて遊ぶ。	19 「ながぐつマーチ」 ここに電車などの遊びの中に取り入れていく 22 手遊び「ちよきちよきダンス」(くるりんぼを動作のみに) 33 「アイスクリームのうた」 35 「大きなうた」	19 「どんぐりころころ」肩たたき 19, 20 楽器(カスタネット, タンブリン) 22 「まつぼっくり」(さ抜き) 31 「きのこ」 35 「バスごっこ」 「やっただー!サンタがやってくる」 43 「アルプス一万尺」 44 手遊び「ちゃっぼ」, 「お寺の和尚さん」	19, 20 楽器(カスタネット, タンブリン) 21 ドライブゴゴ 22 手遊び「ごんべさんの赤ちゃん」 31 「カレンダマーチ」
音響機能	48 音楽やリズムによって、身体の運動が誘発されたり、感覚が刺激されたりする。 49 音楽やリズムに共鳴し、情動が誘発される。 50 音楽やリズムにより音楽的時間を共有する一体感を持つ。 51 手遊びや歌等により、概念の形成、言葉の認識の深化、季節や行事の訪れの理解等が促進される。 52 音楽やリズムがこどもたちの遊びとして存在する。 53 音楽活動や遊びを通して、集団の中で気持ちや活動を共有し、認め合う。	47 「かたつむり」 48 「さんぽ」, 遊戯「アブラハムの子」, 「あたまであくしゆ」, 「ポテトチップス体操」, 「ラッキョーちゃんぼんめん」, マラソンのBGM, ラジオ体操 49 「おなかのへるうた」 51 「こいのぼり」, 「おはなしゆびさん」, 「だんごむしのうた」, 「たなぼた」, 「しゃぼんだま」 手遊び「あおむしでたよ」, 「のぼるよこアラ」, 「あさがおこりやこりや」 52 手遊び「キューピーさん」, 「なつとう」 57 「ちようちよ」, 「だんごむしのうた」, 「かたつむり」 58 「おなかのへるうた」, 「しゃぼんだま」	47 「とんぼのめがね」 48 遊戯「だいすきだい!」, マラソンのBGM, ラジオ体操, 運動会の体操 50 「ハッピーチルドレン」 51 「とんぼのめがね」, 「むしのこえ」, 「どんぐりころころ」, 「もみじ」, 「きのこ」, 「やっただー!サンタがやってくる」, 「ゆき」, 「お正月」 52, 53 手遊び「ちゃっぼ」, 「おてらのおしよさん」, 「アルプス一万尺」 57 「とんぼのめがね」, 「むしのこえ」, 「どんぐりころころ」, 「もみじ」, 「きのこ」, 「ゆき」 58 「どんぐりころころ」	48, 49, 50 いきいきデー 49 「そっだったらいいのにな」, 「みんなであつこう」 遊戯「パプリカ」 マラソンのBGM, ラジオ体操 51 「まめまき」, 「カレンダマーチ」, 「ひなまつり」 手遊び「おにのパンツ」, 「フルーツパフェ」 手話「おはながわらった」 52, 53 手遊び「おせんべやけたかな」 58 「いきいきDAY」のおはなしごっこ
音響対象	47 長調から短調へのアレランジなどを感じて遊ぶ。	教師が簡単な曲の調性を変える活動を取り入れる。		

表5. 年長年間指導計画

	年長	1 学期	2 学期	3 学期
音	11 音の立ち上がり、減衰に気づく。 12 イメージにあった音色、声色、強弱を選ぶ。 13 音の強弱の効果を知る。 14 複数の音をグループで色や形に表し、再現する(＝リズム、メロディ)。	11, 13 「拍手で宝探しゲーム」E 音の立ち上がり、減衰、強弱の表現の仕方を知る。 12 「おはながわらった」(手話) 歌詞のイメージに合った歌い方をする。 13 「いわしのひらき」・竹打ち 曲中で強弱を感じながら演奏などを表す。	11 拍手の強弱で音の立ち上がりや減衰を意図的に作る。 12 「大きな古時計」「はじめの一步」 歌詞のイメージに合った歌い方を表す。 14 曲の一部を絵で表す。	12 劇遊びの効果音を場面に応じて考える。 13 「小さな世界」「ミッキーマウスマーチ」 「ハンガリー舞曲」など 音の強弱の効果を知り、楽曲のイメージに合わせ強弱をつけ、演奏する。
素材	24 拍に合わせて簡単なリズムを作って表す。 25 簡単なリズムの応答をする。 26 楽曲に合わせて、ふさわしい動き、楽器の選択、楽器の組み合わせを考える。	24 「だして ひっこめて、竹打ち」 拍に合わせてリズム打ちをする。 25 「もういいかい、もういいよ」の掛け合い、 「あつかいかなぬるいかな」F、「トマト」A リズムや歌詞の応答をする。	24 「どんぐりころころ」肩たたきG 拍に合わせて打ち方の変化を楽しむ。 25 「小さな世界」「カルメン」など よく頼んでいる曲で合奏のリズムを作って表す。 (小グループや楽器ごとで) 26 好きな曲で楽器遊びをする。演奏の仕方を考える。	24 学年の合奏曲で合奏のリズムを作って表す。 (小グループや楽器ごとで) 26 ハンガリー舞曲 学年の合奏曲 楽器の組み合わせ、リズム打ちの仕方、強弱、テンポを考えて1フレーズを作って演奏する。
表現	36 身体運動や声を通して音の高低を表す。 37 楽曲のフレーズと息継ぎに気づく。 38 応答的な旋律を歌う。 39 三部形式を身体運動で表す。 40 合いの手のような旋律に気づく。 41 階名模唱で音高をとらえる。	37 「あめふりくまのこ」「にじ」 「ハッピーチャンドレン」曲のフレーズを感じる。 38 はないちらんめ 応答的な旋律を歌って遊ぶ。 39 「ドロップスのうた」「世界中の子どもたちが」 三部形式の歌を歌う。 36, 41 「きらきら星」階名と音高を知る。 階名で歌うときに身体運動で音高を表す。	37 「はじめの一步」息継ぎとフレーズを感じる。 38 「お茶を飲みにきてください」C 応答的な旋律で遊ぶ。 38, 40 「あなたがたごき」「ソーラン節」 応答な旋律、合いの手のような旋律に気づく。 39 「大きな古時計」 三部形式を動きで表現する。 36, 41 「ドレミの歌」「ぶんぶんぶん」階名で歌う。	37, 38 「とおやんせ」 応答しながら歌う。 39, 40 「ドキドキドン! 1年生」 三部形式を歌いながら身体表現で表す。 合いの手のような旋律を楽しむ。 40 「こいぬのマーチ」 41 階名で歌うことの楽しさを感じる。
仕	42 和音の響きを感じる。	42 「かえるの合唱」輪唱をする。 「ドレミの歌」パートに分かれて連うメロディを歌う。 ハンドベルの鑑賞で和音を感じる。	42 「一年中の歌」B輪唱をする。 「ドレミの歌」パートに分かれて連うメロディを歌う。 ハンドベルの鑑賞で和音を感じる。	46 「こここのねっこ」「いちねんせい」 伴奏で曲の雰囲気を読める。 47 様々な歌を短調にする。 短調のイメージを感じて歌う。
方	45 簡単な直行カノンの歌を歌う。 46 伴奏の効果に気づく。 47 長調から短調へのアレンジなどを感じて遊ぶ。	46 「めだかの学校」 伴奏をよく聴き、合わせて歌う。 47 「かたつむり」H短調「ドロップスのうた」 短調で弾き、曲調の速いに気づく。	45 「友だち賛歌」「友だちになるために」 伴奏の雰囲気に応じて歌う。 「弁慶が」でパート分かれて拍子をとりにながら歌う。 47 「悲しいカタツムリ」短調で歌う。	46 「こここのねっこ」「いちねんせい」 伴奏で曲の雰囲気を読める。 47 様々な歌を短調にする。 短調のイメージを感じて歌う。
音楽の機能	48 音楽やリズムによって、身体の運動が誘発されたり、感覚が刺激されたりする。 49 音楽やリズムに共鳴し、情動が誘発される。 50 音楽やリズムにより音楽的時間を共有する。一体感を持つ。 51 手遊び等により、教概念の形成、言葉の認識の深化、季節や行事の訪れの理解等が促進される。 52 音楽やリズムが子どもたちの遊びとして存在する。 53 音楽活動や遊びを通して、集団の中で気持ちや活動を共有し、認め合う。	48 「アキレスケンタウルス体操」 「どんぐりころころ」肩たたき 49, 53 「友だち賛歌」 50 「友だち賛歌」「はじめの一步」 「ともだちになるために」 51 「とんぼのめがね」「お正月」「ゆき」 「八兵衛さんと十兵衛さん」I 52 「アルプス一万尺」「十五夜さんの餅つき」	48 「アキレスケンタウルス体操」 「どんぐりころころ」肩たたき 49, 53 「友だち賛歌」 50 「友だち賛歌」「はじめの一步」 「ともだちになるために」 51 「とんぼのめがね」「お正月」「ゆき」 「八兵衛さんと十兵衛さん」I 52 「アルプス一万尺」「十五夜さんの餅つき」	48 「どうぶつむらのボンポコバス」「パプリカ」 49, 53 「ドキドキドン一年生」「いちねんせい」12 50 「ハンガリー舞曲」「ありがたうこころをこめて」 「ともだちになるために」「たいせつなたからもの」「いちねんせい」13 51 「ともだちになるために」「みんなともだち」 クラスで一体感を味わいながら音楽を共有する。 52 「ともだちになるために」「みんなともだち」 手話により言葉と手の動きの意味のつながりを知る。 52 「アルプス一万尺」「あなたがたごき」 歌いながら遊ぶ
音楽の表現 対象	58 自然や動物などを表した楽曲のイメージをとらえ、その音楽的特徴を生かして歌う。 59 ストーリー性のある歌詞を、その音楽的特徴を生かして歌う。 60 登場人物の感情に合わせて、表現する。	57 「とんぼのめがね」 58 「大きな古時計」「動物園へ行こう」 パネルシアターから歌へ発展させる。	57 「とんぼのめがね」 58 「大きな古時計」「動物園へ行こう」 パネルシアターから歌へ発展させる。	57 「ゆき」 58 劇遊び中の歌をストーリーを理解して、感情を表現しながら歌う。

(A: 子どもたちの名前に呼び替え、B: 輪唱する、C: 応答的な旋律の掛け合い、D: 速さをつくる、E: 拍手の大きさを宝を探す、F: 応答的なやりとり、ダイナミクス、G: 肩たたき(8→4→2→1拍)、H: 短調に I: 子どもたちが動作をつくる)

の最初に、たとえば「おとさがし」「音のあてっこ」等、曲名ではなく、遊びや活動を示していることが多く、また最初に曲名をだしている場合でも、その後、それをどのような活動で使うか、どのような視点から選んでいるのかを示している。そのことにより、歌を歌う場面で歌うことという形ではなく、遊びや他の活動と繋げながらとらえていけたことが推察できる。

年長の年間指導計画についても、楽曲のあとに遊びや活動を示したり、AからIの記号で注記したりして、その楽曲で何を見ていくのがわかるようになっている。年間指導計画は年少よりはやや遊びや活動が少ないが、たとえば「三部形式を動きで表現する」などの記載から意識をしていくことが、三部形式ではない形式での子どもたちの動作に気づいていっている様子が窺える。

年中の年間指導計画は、先にも述べたように、年少、年中の年間指導計画に比べて、楽曲中心になっている。前掲の年間指導計画の作成の視点の一つには「カリキュラムの項目と年間指導計画の分類を紐付けするとともに具体的な遊びや楽曲を示していくこと」と挙げていたが、その中で具体的な楽曲を示すということに重点を置いた形である。そのため、記録では、楽曲がふさわしかったかどうかを重視するようになり、日常的な遊びと活動にどう表れてきたかという記載は少なくなっている。今後は、学年間で、それぞれの年間指導計画についての検討が必要である。

おわりに

本研究では、2019年から音楽表現カリキュラムと年間指導計画の開発を行ってきた。これまでも述べてきたように、カリキュラムの分類のうち、「音楽の機能」や「音楽の表現対象」の内容についてはこれまでのカリキュラムでもよく見受けられるものがあつた。しかし、就学後を見通して「音楽の素材や表現の仕方」に子どもたちがどのように気づいたり遊んだりしていくのかに注目したカリキュラムは、これまでに散見されない。そのために、椋山幼稚園での運用は、多くの打ち合わせを要したし、まだ年間指導計画においても各学年でとらえかたに違いが見られる。

しかし、年間指導計画は年度ごとに見直しをしていくものでもある。本論であげた年間指導計画の運用によって、子どもたちの音楽表現活動に対して教師に多くの気づき生まれ、教員間で教材研究や遊びの中の音楽表現に対する視野が広がった。今後、学年間の調整や新たな修正・加筆を続けていくことを課題としたい。

付 記

本研究は、山中、太田と、2021年度の「表現」担当教員

でまとめたが、事例研究や学年の記録などは、椋山女学園大学附属幼稚園の全教員により行った。

註

- 1) 年間指導計画は、紙面の都合で、本稿では年少だけ掲載する。
- 2) 「素材や表現の仕方」の各項目は、「音楽の機能」や「音楽の表現対象」に挙げた項目の内容と密接に関わっている。それを踏まえた上で、どんな表現素材や表現方法に着目させたり、獲得が見られたりしているかに着目した。
- 3) 音楽会は、最後に掲載されているポスターのように2020年7月6日に椋山幼稚園で行った。演奏者は、ソプラノ/酒井和音、アルト/鬼頭愛。テノール/古屋彰久、バス/大倉一将、ピアノ/太田央子、企画構成は、太田央子、山中文による。
- 4) 宮崎駿 作詞、久石譲 作曲、寺嶋陸也 編曲
- 5) 水田詩仙 訳詞、ドイツ民謡
- 6) オペラ『魔笛』より ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲、エマヌエル・シカネーダー 台本
- 7) 中島光一 作詞・作曲
- 8) 木村利人 作詞、アメリカ民謡
- 9) ルロイ・アンダーソン 作曲、伊藤辰雄 編曲
- 10) 岡本敏明 作詞、ドイツ民謡
- 11) 岩沢千早 作詞、橋本祥路 作曲
- 12) 宮沢和史 作詞・作曲、連弾アレンジは石川芳

引用・参考文献

- 文部科学省 (2018) : 幼稚園教育要領解説, フレーベル館.
- 文部科学省 (2021) : 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開, チャイルド社.
- 山中文・飯田恵・三田郁穂・今井直子・伊藤環・太田央子 (2019) : 幼児期の音楽表現カリキュラムの研究その1—椋山女学園大学附属幼稚園の「表現」の年間指導計画の検討にあたって—, 椋山女学園大学教育学部紀要, 12, 113-126.
- 山中文・小林奈美・三田郁穂・今井直子・佐藤百合子・太田央子 (2021) : 幼児期の音楽表現カリキュラムの研究その2—園内研修による事例検討とカリキュラム改訂—, 椋山女学園大学教育学部紀要, 14, 81-109.

本文中の楽曲の作詞・作曲者

- 「アイスクリームのうた」: さとうよしみ作詞, 服部公一作曲,
 「あたまであくしゅ」: 福尾野歩作詞, 中川ひろたか作曲
 「あつかなぬるいかな」: 手遊び歌, 「アブラハムの子」: 加

藤孝広作詞，外国曲，「あんたがたどこさ」：わらべうた
 「一年中の歌」：岡本敏明作詞，アメリカ民謡，「1匹のかえる」：作詞作曲者不明
 「1本と1本で」：マザーグース「十人のインディアン」の替え歌，「犬のおまわりさん」：佐藤義美作詞，大中恩作曲
 「いわしのひらきが」：小宮真央，レインボー・ムーン作曲，「宇宙船のうた」：ともろぎゆきお作詞，峯陽作曲
 「おおきなたいこ」：小林純一作詞，中田喜直作曲，「大きなうた」：中島光一作詞・作曲，「おせんべやけたかな」：手遊び歌
 「お茶を飲みにきてください」：わらべうた，「お寺の和尚さん」：手遊び歌
 「おもちゃのチャチャチャ」：野坂昭如作詞，越部信義作曲，「おへそ」：佐々木美子作詞・作曲
 「親子でメリーゴーラウンド」：有吉有巳子作詞，平田明子作曲，「かえるのみどりちゃん」：増田裕子作詞・作曲
 「かまきりじいさん」：文部省ヨミカタニ作詞，一宮道子作曲，「カレンダーマーチ」：福田和禾子作詞，早川史郎作曲
 「かごめかごめ」：わらべうた，「汽車は走る」：岡本敏明作詞・作曲
 「きらきら星」：武鹿悦子作詞，フランス民謡
 「グーチョキパーで」：齋藤二三子作詞，フランス民謡「フレールジャック」の替え歌
 「くいしんぼゴリラのうた」：阿部直美，おざわたつゆき作曲，「くりのきやまのきつね」：平田明子作詞・作曲
 「こいぬのマーチ」久野静夫作詞，作曲者不詳，「こすれこすれ」：増田裕子作詞・作曲
 「ことりのうた」：与田準一作詞，芥川也寸志作曲，「こぶたさんのおうち」：阿部直美作詞，福田和禾子作曲
 「ごんべさんの赤ちゃん」：作詞者不詳，アメリカ民謡，「さんぽ」：中川李枝子作詞，久石譲作曲
 「十五夜さんのもちつき」：わらべうた，「しゅりけんになんじゃ」：谷口國博作詞，中川ひろたか作曲
 「白いひげのサンタさん」：増田裕子作詞・作曲，「すうじのうた」：夢虹二作詞，古谷肇作曲
 「せんろはつづくよどこまでも」：佐木敏作詞，アメリカ民謡，吉川和夫編曲，「ぞうさんとくものす」：作詞作曲者不明
 「たのしいね」：山内佳鶴子作詞／寺島尚彦補作詞，寺島尚彦

作曲，「たまごたまご」：すずきかなこ作詞，赤坂東児作曲
 「たんじょうび」：与田準一作詞，酒田富治作曲，「小さな庭」：手遊び歌，「チューリップ」：近藤宮子作詞，井上武士作曲
 「とおoryんせ」：わらべうた，「ともだち讃歌」：阪田寛夫作詞，アメリカ民謡，「どんな色がすき」：坂田修作詞・作曲
 「ドキドキドン！1年生」伊藤アキラ作詞，桜井順作曲，「ドコノココノコ」：もりちよこ作詞，ザッハトルテ作曲
 「トマト」：荘司武作詞，大中恩作曲，「ともだちになるために」：新沢としひこ作詞，中川ひろたか作曲
 「ドレミの歌」：ペギー葉山日本語詞，リチャード・ロジャース作曲，「ドロップスのうた」：まどみちお作詞，大中恩作曲
 「なつとう」：手遊び歌，「奈良の大仏さん」：わらべうた，「にんじゃのおにぎり」：島本一男作詞，谷口國博作曲
 「はじめの一步」：新沢としひこ作詞，中川ひろたか作曲，「八べえさんと十べえさん」：わらべうた
 「ハッピーチルドレン」：新沢としひこ作詞，中川博隆作曲
 「はらべこあおむし」：エリック・カール原詩，二本松はじめ作詞・作曲，「はをみがましよう」：手遊び歌
 「パンやさんにおかいもの」：佐倉智子作詞，おざわたつゆき作曲，「ひげじいさん」：手遊び歌
 「ぶんぶんぶん」：村野四郎作詞，ボヘミア民謡，「マーチングマーチ」：阪田寛夫作詞，服部公一作曲
 「水あそび」：東クメ作詞，滝廉太郎作曲
 「ミッキーマウス・クラブ・マーチ」：ジミー・ドッド作詞・作曲（通称「ミッキーマウス・マーチ」）
 「三ツ矢サイダー」：手遊び歌，「みんなでつころう」：山上路夫作詞，いずみたく作曲
 「むすんでひらいて」：作詞不詳，Rousseau-Jean Jacques 作曲，「むっくりくまさん」：志摩桂作詞，スウェーデン民謡
 「はじまるよはじまるよ」：手遊び歌，「ひよっこりひょうたん島」：井上ひさし・山元譲久作詞，宇野誠一郎作曲
 「ポテトチップスのうた」：阿部直美作詞・作曲，「ラッキーちゃんぼんめん」：増田裕子作詞・作曲
 「山のワルツ」：香山美子作詞，湯山昭作曲，「やまびこごっこ」：おうちやすゆき作詞，若月明人作曲
 「ワニのかぞく」：上坪マヤ作詞，峯陽作曲
 *（山中他：2021）に記載した楽曲については省略した。



おんがくかい

名古屋在中のオペラ歌手やピアニストの方々が、楽しくて一緒に参加できる音楽を披露して下さいます 時には幼稚園の先生の出演も??



7月6日(月)
年中10:00-10:20
年少10:35-10:55
年長 11:10-11:30

曲目

- となりのトトロ
- 幸せなら手をたたこう
- パパのARIA
- スーパーカリフラジリスティック
エキスピドーシャス
- トランペット吹きの日
- 風になりたい 他

(学年によって曲目は変わります)

出演・企画

ソプラノ/酒井和音 アルト/鬼頭愛 テノール/古屋彰久 バス/大倉一将
ピアノ・ジャンベ/太田央子 企画/太田央子、山中文

*3密を避けるため、保護者のご参加はご遠慮ください

註内のプログラム